

“旧町名由来板”をご存じですか？



港区内には歴史や文学、歌舞伎等に残る町名が数多く存在しました。これらの町名は、永く地域で親しまれてきたもので、町会や交差点の名称として今も一部残っています。地域の生活と密接な関係のあった町名を文化の視点で都市の記憶として保存するとともに、人と人をつなぐ架け橋として区民と協働で旧町名の由来板を作成しました。

大正10年(1921)発行の「東京市芝区図」(東京通信局発行)を参照すると、芝地区には当時74の町名がありました。その後、昭和7年(1932)に新橋地区の多くの町名が変更され、昭和40・47年(1965・1972)には住居表示実施による町名変更があり、現在使われている町名になりました。現在74の旧町名のうち62の町名の由来を17の旧町名由来板で紹介しています。

今回は、三田小山町児童遊園(芝地区MAP 13)にある旧町名由来板から4つの旧町名を紹介します。

みなこやまちう 【三田小山町】

芝区西隅の一角、古川の流域に三田丘陵が急傾斜で落ち込むところにあります。江戸時代、三田久保町、龍原寺門前、当光寺門前および円徳寺、大乘寺、長久寺、大中等寺の寺地を併せ、明治2年(1869)、古来の通称に従って三田小山町と称しました。明治5年(1872)、華族黒田長從邸(元黒田甲斐守邸)および松平時之助(元郡山藩)邸をも併せてその町域を拡張しました。

しんもんぜんちう 【新門前町】

中之橋より一之橋までの赤羽根川(古川)に沿っている場所です。この地はもと、南新門前一、二丁目の代地、築地同朋町の代地、丸亀藩京極佐渡守の中屋敷と諸土邸地等でした。明治5年の頃、これらの土地

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご利用ください。

- 1 港区立御成門中学校 1P
- 2 岩谷産業株式会社 東京本社 1P
- 3 駿河屋青野茶園 2P
- 4 チリ共和国大使館 2・3P
- 5 株式会社モリタホールディングス 東京本社 3P
- 6 磯谷商店 4P
- 7 丁子屋呉服店 4P
- 8 区立芝公園 5P
- 9 芝東照宮 5P
- 10 旧台徳院靈廟惣門 5P
- 11 増上寺 5P
- 12 伏見三寶稲荷神社 5P
- 13 春日神社 5P
- 14 戸板女子短期大学 5P
- 15 Café Deux(カフェ・ドゥー) 6P
港区立生涯学習センター(ばるーん)1階
- 16 芝地区昭和の地域力
再発見事業拠点「芝の家」 7P
- 17 東京タワー 8P
- 18 芝公園児童館 8P
- 19 都立芝商業高等学校 8P
- 20 港区立港郷土資料館 8P
- 21 愛宕警察署 8P



を合併して新たに新門前町としました。その後、古川を境に南北に分け、北を北新門前町と名付けて麻布区に、また南を新門前町と称して芝区に編入されました。

しんもんぜんがし 【新門前河岸】

芝新門前町の西北部、新堀橋から中之橋までの古川岸にある兩岸の名称です。明治11年(1878)、新門前河岸と称するようになりました。河岸地に人が住むようになって一町なみとなったのは他の河岸地同様、明治以後と思われる。

みたつなまち 【三田綱町】

明暦4年(1658)、蠣燭をその代表的名産とする会津藩の下屋敷となりました。その後、だいたいに諸大名の別邸地となり、明治5年、会津藩松平肥後守、佐土原

*由来板が設置されている場所を上記「芝地区MAP」に記しました。由来板を巡る「芝ウォーキング」にご利用ください(3、7、10は未設置です)。

潘島津淡路守、柏原藩織田出雲守の三藩邸を合併して新たに三田綱町と名付けられました。町名は、そのむかし、この地が三田村の田園の一部であり、源頼光四天王の一人渡辺綱の出生地と伝承されていることに由来します。現在もオーストラリア大使館敷地内に「綱の産湯」といわれる井戸が残っています。

Info 今回紹介した旧町名由来板が設置されている
三田小山町児童遊園
三田1-5-16